

『みんなのスポーツ』3月号（No.491）から学ぶ

林 但

平素より協議会の活動にご理解をいただきありがとうございます。

表記、公益社団法人 全国スポーツ推進委員連合機関誌の3月号は「子どもスポーツの現在とこれから」の特集号です。

私が今月号で気づいたこと・参考になる点の中から2点記載します。



1. 特集「子どもスポーツの現在とこれから」

- 1) 巻頭言で群馬県の会長が冒頭で「R4 年度全国の調査結果で体力合計点は小中学校とも過去最低」となっています。このことは成長過程に必要な運動刺激や精神的成長が不足している事を意味しています。子どもを取り巻く環境は様々で、スポーツをやりたくない子、家庭環境問題でやりたくてもできない子など多くの課題を抱えています。スポーツ推進委員には、それぞれの現状や課題を理解し、解決に向けて専門性の高いスキルを身につけていく必要があります。

しかしながら、専門性の高いスキルは一朝一夕で身につくものではありません。例えば、スポーツの楽しさを体験する教室や大会を小学校や地域の方々と一緒になって企画する、行政やスポーツ団体などと協働していくことが大切といわれているところは私も同感です。

- 2) 事例2の愛知県豊田市の「学校・家庭・地域が協働で子どもを育てる」の内容では、地域学校協働本部（横須賀市の場合学校運営協議会が相当）が、学校・家庭・地域をつなぎ子どもの成長を支えるために活動を推進している。事例が4つ紹介されていたが、横須賀市に当てはまるものはなかったが考え方・取り組み方は参考になると感じた。この考え方に沿った活動ではないかと、感じたのが岩戸学区である。理事の方に伺えば、年度初めに学校に伺い校長先生、教頭先生と年度行事計画を詳しく説明するとともに学校とも意見交換もされている。R4年度も学校から要請で「ポッチャ教室」や放課後の部活動にポッチャがあり指導もされているとの事。私が訪問した時も学校側との関係がうまくいっているなど感じました。学校開放運営が自主管理方式に移行していることもあり、自学区においても今まで以上に密に連絡調整などする必要があると昨今感じています。

2. わが町の健康・体づくり 愛知県豊明市

「気軽に楽しめるスポーツ環境を目指して」各小学校区から1名選ばれたスポーツ推進委員16名が、市内にあるスポーツクラブに指導員として、部活動にない種目を通してスポーツクラブの運営について関わる他、各種イベントの企画運営他を行っている。中でもコロナ禍でのスポーツ活動の在り方では、地域分散型・地域密着型に変えてスポーツの普及に取り組まれている事。サロンと称して小規模で、ポッチャ、ノルディック・ウオーキング、モルック、カローリングなどである。この考え方は参考になると感じています。

今月号では2つの事に記載致しました、知っていることが多いと思う方もあるかもしれませんが、気づいたことのできることから始めて（行動）みませんか？

* 本冊子は有益で私たちの活動のヒントや答えがあるように私は思います。年間購読されなかった方は、個別にも購入はできますので一度読んでみてください。問題意識や感度を高めていくと紹介されている事例が使える場合とこのままでは使えないがこうすればできる。こんな方法もあるなど感ずると思います。是非一緒に取り組んでいきましょう！

以上